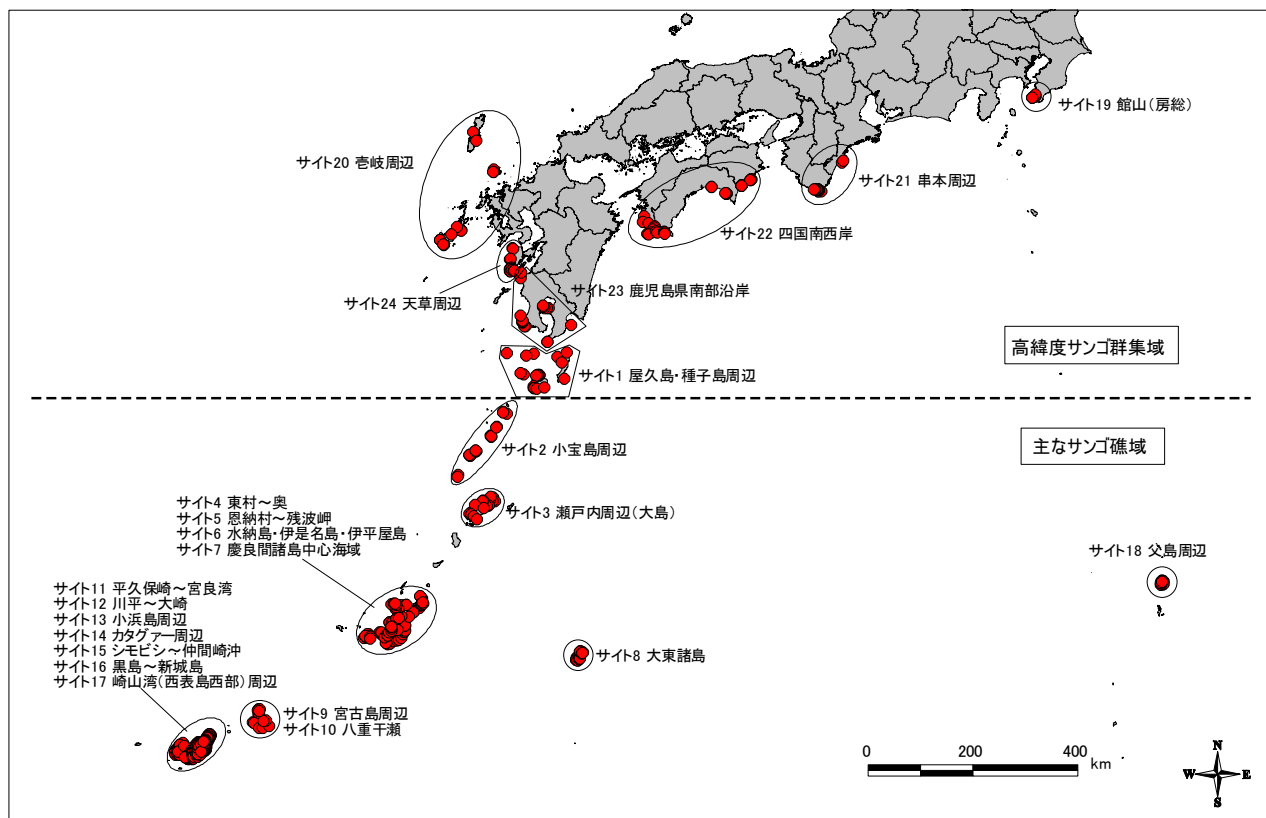


モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査

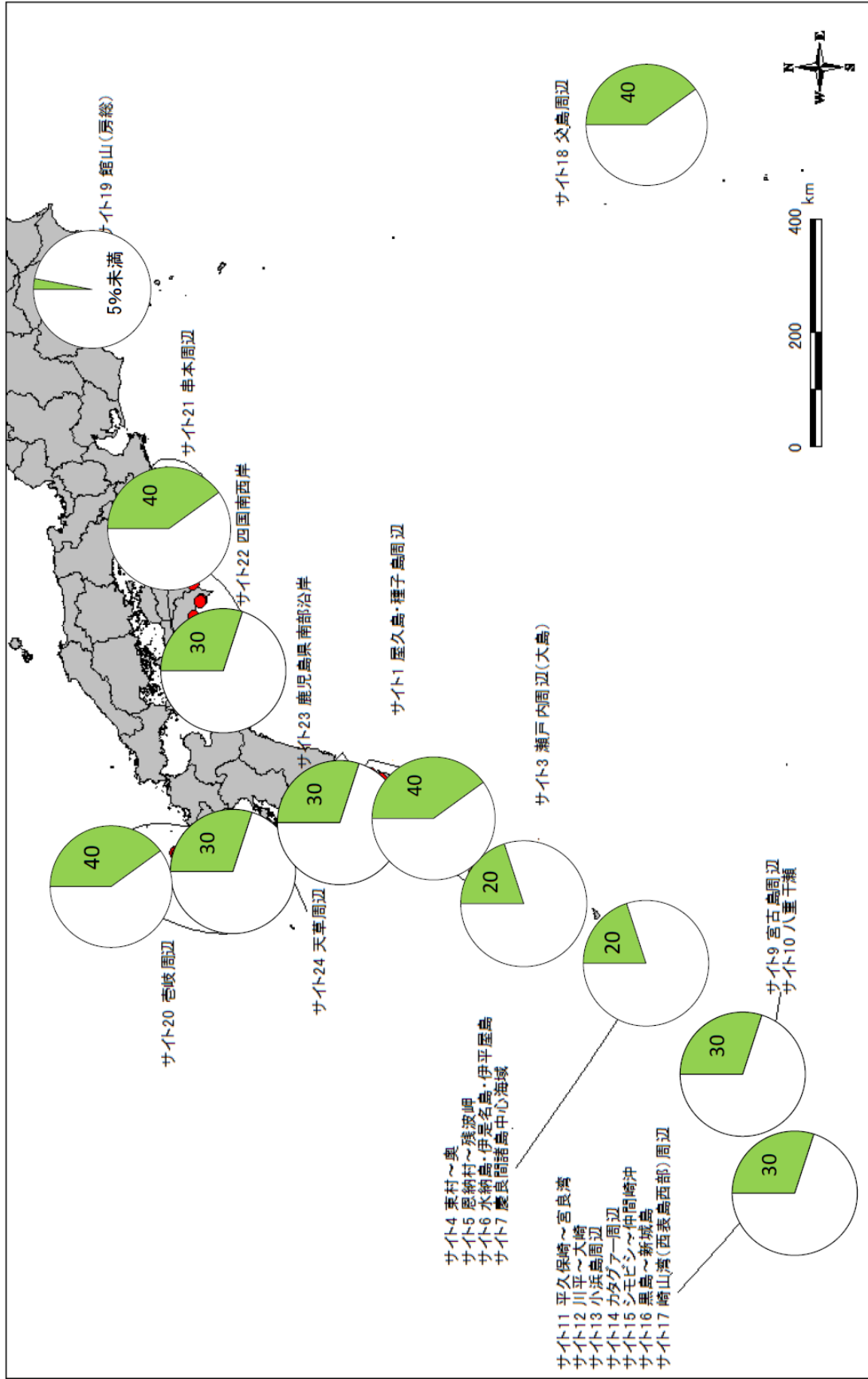
平成 25(2013)年度速報

モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査では、サンゴ礁の発達する「サンゴ礁域」とサンゴ群集が生育する「高緯度サンゴ群集域」に合計 24 の調査サイトがあり、毎年調査を行っています（小宝島周辺と大東諸島の 2 サイトは、遠隔地にあるため 5 年に 1 度実施します）。

ここでは、2013 年度の調査結果の概要をお知らせします。



モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査 サイト位置図



モニタリングサイト1000サンゴ礁調査における平成25（2013）年度の各サイト又は海域の平均サンゴ被度（%）

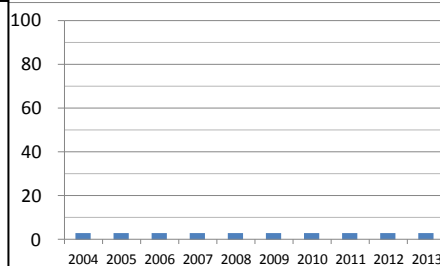
各サイト及び海域の概況

高緯度サンゴ群集域

モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査では、サンゴ礁を形成しない温帯域のサンゴ群集分布域のことを「高緯度サンゴ群集域」と呼び、屋久島とトカラ列島の間を境界にして、館山（サイト 19）から屋久島・種子島周辺（サイト 1）までのサイトを含みます。グラフは各サイト又は海域の平均サンゴ被度（%）です。

館山(サイト 19) 調査代表者:お茶の水女子大学・清本正人

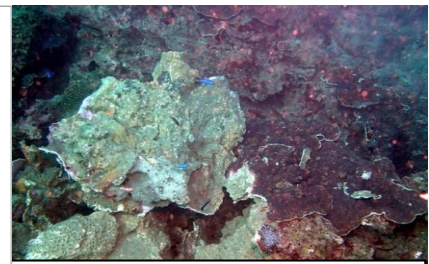
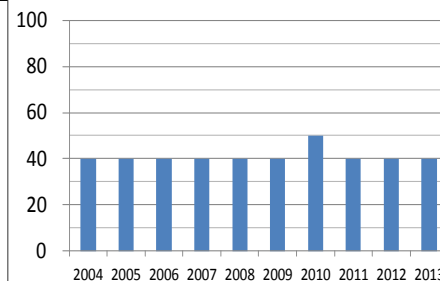
昨年度から同様の状態が維持されている。エンタクミドリイシ類の成長や小型群体の加入が目立つ地点もある。ニホンアワサンゴ群体の回復がみられた地点もある。



アワサンゴは回復傾向にある

串本周辺(サイト 21) 調査代表者:串本海中公園センター・野村恵一

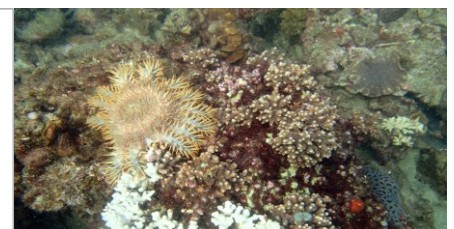
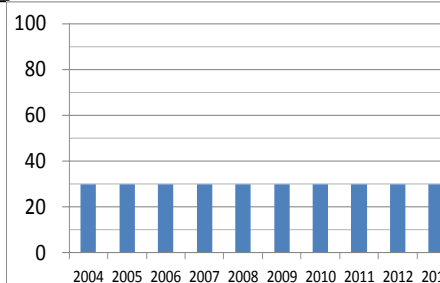
台風による破損があり、個体数は減少傾向にあるオニヒトデの被害も依然として続いている。ミドリイシ類の被度が増加しているところもあるが、サンゴ被度の平均値は昨年と変わらず。



台風による被害を受けたキッカサンゴ類

四国南西岸(サイト 22) 調査代表者:黒潮生物研究所・目崎拓真

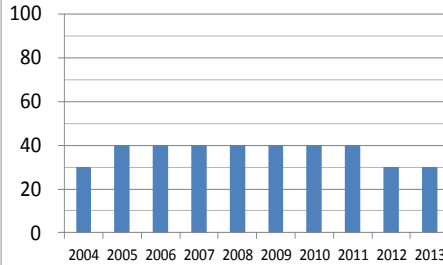
高知県南西部で夏季高水温と冬季低水温による白化現象が観察されたが、その後回復した。オニヒトデが大発生レベルの地点は無かったが、その分布は四国東部（徳島県）の調査地点へも拡大していた。



愛媛県の調査地点（竹ヶ島）で初めて観察されたオニヒトデ

鹿児島県南部沿岸(サイト 23) 調査代表者:ダイビングサービス海案内・出羽慎一

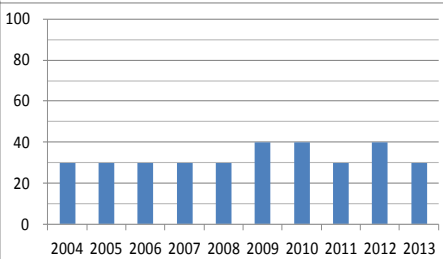
昨年からのオニヒトデ食害や台風
の被害、桜島噴火による降灰被害
が続いているが、サンゴ被度が著
しく低下した地点は無かった。サ
ンゴ食巻貝による食害がやや増加
している地点があった。



コブヒトデモドキによるサンゴ食害(地点 4)

天草周辺(サイト 24) 調査代表者:九州大学・野島哲

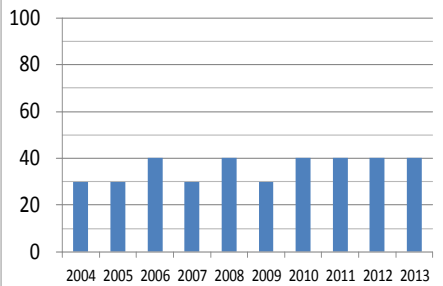
多少の被度の増減はあるが、順調
に生育していると思われる。冬期
水温の上昇によってサンゴ礁魚類
が多く見られるようになり、一部
では食痕も顕著になってきた。



台風によると思われるサンゴの倒壊

屋久島・種子島周辺(サイト 1) 調査代表者:屋久島海洋生物研究会・松本毅

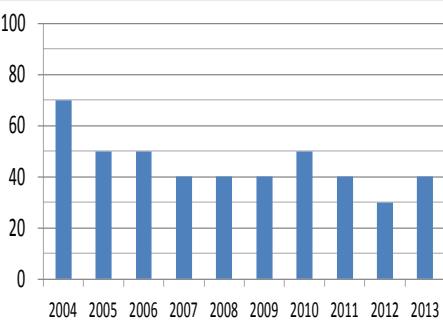
7~9月の高水温のため、麦生調査
地点でミドリイシ類に白化現象が
見られたが、死滅することなく回
復した。全体ではサンゴ被度の大
きな変化はなく、オニヒトデ、台
風等による影響も無かった。



夏季高水温によるミドリイシ類の白化(麦生)

壱岐周辺(サイト 20) 調査代表者:国立環境研究所・杉原薫

2012年に台風による被害が見ら
れた五島列島の卓状ミドリイシ
群集(津多羅島、中通島)及び多
種混成群集(福江島、若松島)で、
サンゴ被度の回復が見られた。対
馬、壱岐、福江島では白化現象が
見られたが、死亡は無かった。

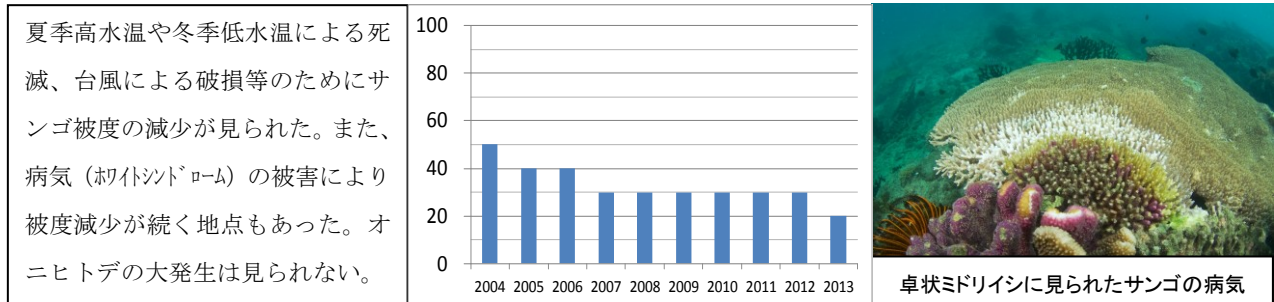


白化した塊状ククメイシ群体(壱岐、板)

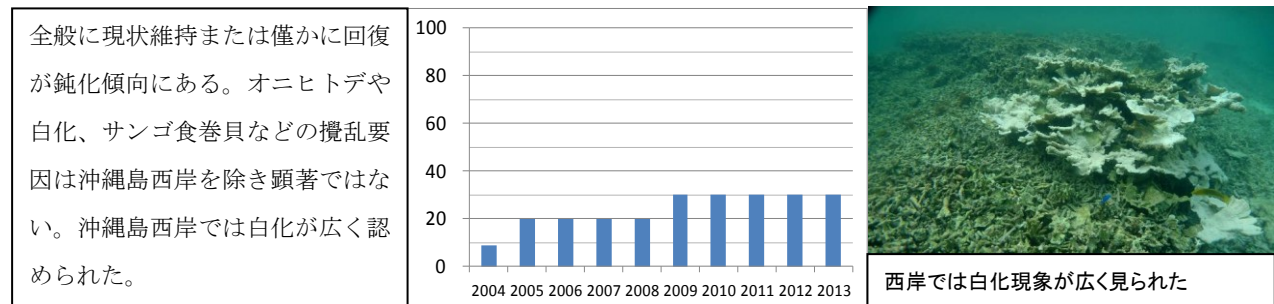
主なサンゴ礁域

主なサンゴ礁域とは、サンゴ礁を形成する亜熱帯域を指し、モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査では、小宝島周辺（サイト 2）以南のサイトを含みます。グラフは各サイト又は海域の平均サンゴ被度（%）です。なお、小宝島周辺（サイト 2）と大東諸島（サイト 8）は 5 年に 1 度モニタリングを行う遠隔地サイトであるため、2012 年度は調査を実施していません。

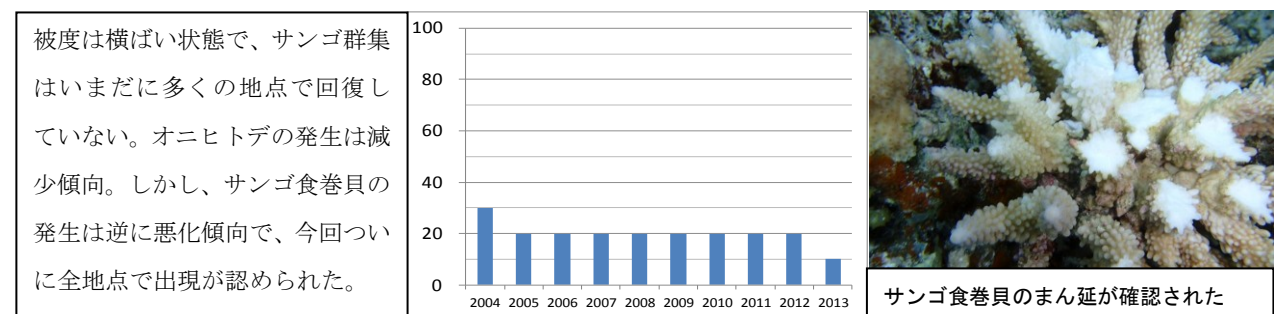
瀬戸内周辺(サイト 3) 調査代表者: ティダ企画有限会社・興克樹



沖縄島及び周辺離島海域(サイト 4~6) 調査代表者: 沖縄県環境科学センター・長田智史

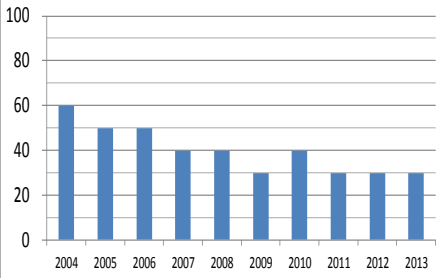


慶良間諸島中心海域(サイト 7) 調査代表者: 阿嘉島臨海研究所・岩尾研二



宮古島周辺及び離礁(サイト9、10)海域 調査代表者:宮古島市役所・梶原健次

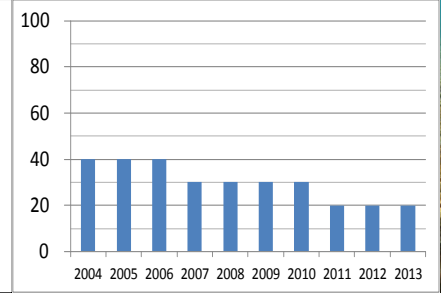
宮古島北東部ではオニヒトデの食害によりサンゴ被度が低下したが、南西部では2009年の大量加入群の成長により回復している地点が見られた。八重干瀬では軽度の白化が観察された。



白化したアザミサンゴ(八重干瀬)

石垣島周辺(サイト11、12)海域 調査代表者:(有)海游・吉田稔

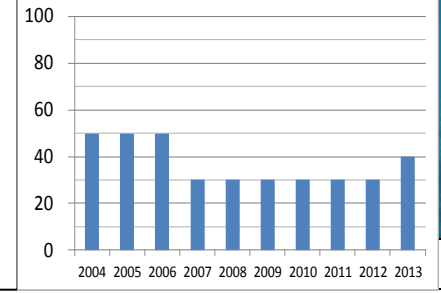
台風によりサンゴ被度が減少した地点があったが、全体としてサンゴ被度は昨年と変わらず、10%未満の「極めて不良」地点が多かった。オニヒトデ観察地点数と総観察数は昨年よりさらに減少した。



台風により破損、埋没したサンゴ類(東岸)

石西礁湖及び西表島周辺海域(サイト13~17) 調査代表者:自然環境研究センター・木村匡

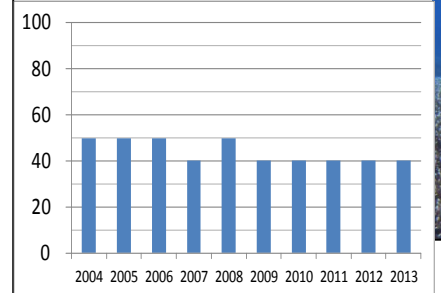
石西礁湖北部及びヨナラ水道周辺及び西表島北部～西部で大発生レベルのオニヒトデが観察されている。石西礁湖中央部、南部でサンゴ被度のわずかな回復傾向が見られた。



台風により破損したサンゴ群体(北部)

父島周辺(サイト18) 調査代表者:小笠原自然文化研究所・佐々木哲朗

軽微な白化現象が観察されたが、顕著なく乱や変化はなく、平均サンゴ被度は昨年度と変わらず。2011年に兄島で確認されたオニヒトデはその後観察されておらず、増加の傾向は見られない。



スギノキミドリイシの大群集(父島二見湾)